

## 【日本の大学】第11回——国際基督教大学：世界基準の「全人教育」

日本や北米のキリスト教関係者の間では、20世紀の初めから、日本にキリスト教大学を設立しようとの夢を描いてきたという。第2次世界大戦の終結（1945年）を期に、悲慘な戦争への反省や次世代への責任として、キリスト教精神に基づいた総合大学の設立を目指す動きが具体化し、創設委員会ができて検討が進められた。1949（昭和24）年に静岡県御殿場市のYMCA東山荘で開かれた大学組織協議会に集った日米のキリスト教指導者によって「国際基督教大学（ICU）」の創設が決議された。



授業に行く

### ▽寄付金で広大な土地購入

創設したのは、キリスト教プロテスタント教会の一つの派である長老教会であり、東京郊外の武蔵野の広大な土地（東京都三鷹市）は、企業、団体、キリスト教信者など多くの国内外の善意によって集まった寄付金1億6千万円によって購入された。設立準備委員会の名誉総裁には高松宮宜仁親王が就任し、当時の日銀総裁である一万田尚登が設立のための募金活動に奔走した。また、GHQの最高司令官を務めたダグラス・マッカーサーも、財団の名誉理事長として米国の募金運動に務めるなど、各界の著名人が設立に協力した。

開学に先立ち 1952（昭和 27）年に語学研修所が開設され、翌 53（昭和 28）年 4 月に開校した。当初からリベラル・アーツ・カレッジとして教養学部 1 学部を設置。学科は人文科学科、社会科学科、自然科学科の 3 科で翌年から英語学科が加わった（1960 年からは語学科に）。初代学長には同志社の総長を務めた教育者で昆虫学者でもある湯浅八郎が就任。同氏は設立準備から携わり、学長退任後も長く理事長を務めるなど、大学の礎を築く上で重要な役割を果たした。

「平和」「学術基礎」「専門知識」を統合しながら、日本語—英語のバイリンガリズムによる世界基準の「全人教育」をおこなうことを教学方針としている。



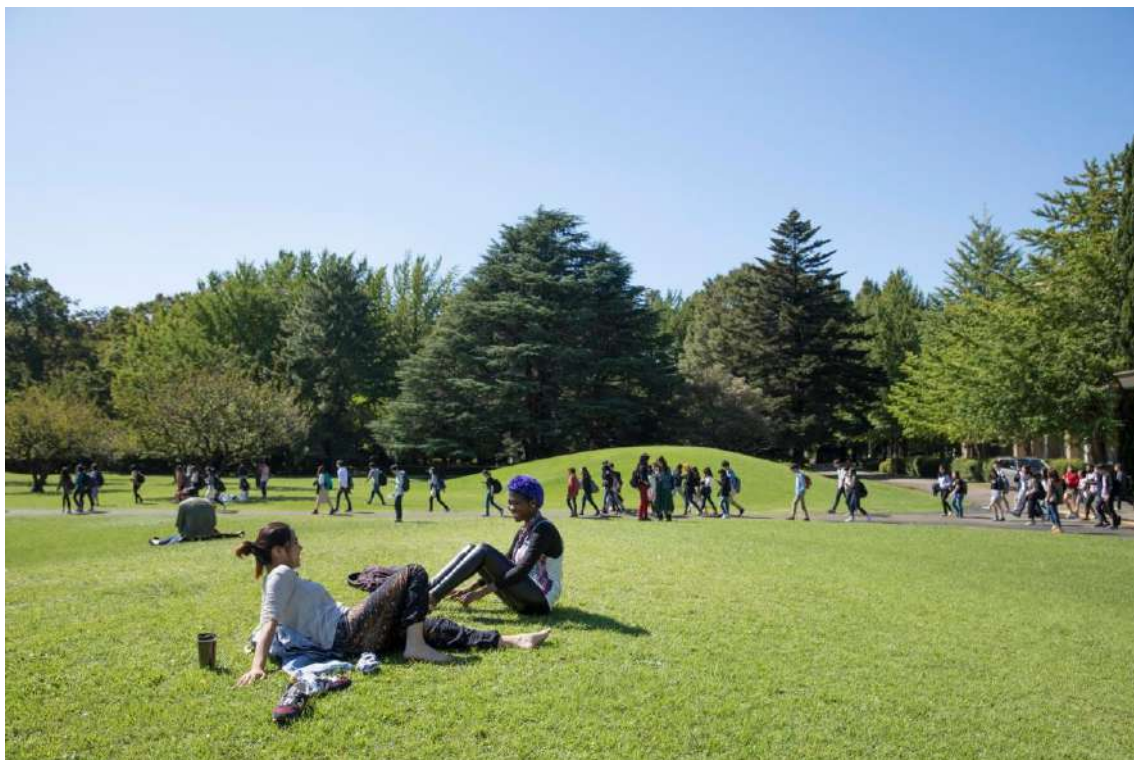
教室から出る

以下、国際基督教大学のホームページなどから大学の現状を見ていこう。

大学の名前にあるように、「キリスト教の精神に基づき、国際的な社会人としての教養をもって、神と人ともに奉仕する有為な人材を育成し、恒久平和に資すること」を目的としている。宗務部、教授会の宗務委員会、学生グループなどによりさまざまな宗教活動が行われている。毎週水曜日の昼休みには大学牧師、教員、学生のほか学外からの説教者を招き、礼拝もされている。また、毎年 5 月には、全学の宗教への関心を深める機会としてキリスト教週間が開かれる。この 1 週間は授業時間が短縮され、学生委員会が中心となって企画した講

演、フォーラム、オープンハウス、コンサートなどが開かれる。(コロナ禍で水曜礼拝は現時点では行われておらず、5月のキリスト教週間は中止となり、秋にオンラインなど別の形で実施することを検討中である)

国際基督教大学協会 (ICU 教会) は大学とは別個の組織であり、こちらはキリストの精神を通してすべての人々に、福音の宣教と奉仕の誠を尽くすことを目的としている。



キャンパスにて

#### ▽「世界人権宣言」浴う大学生生活

大学では、人間の個としての発達、社会における個人の権利という問題を建学以来重視してきた。1953年4月の、最初の入学式では出席した新入生1期生198人一人ひとりが紹介され、各人が大学の原則を支持し、国際連合が採択した「世界人権宣言」の原則に立って大学生生活を送る旨を記した誓約書に署名した。以降、学生による宣誓は毎年の入学式における慣例となっている。

創立50周年の2003年を中心として、1999年から2004年3月まで5年間にわたり、記念事業を展開。2003年には「行動するリベラルアーツ」が新たな目標として掲げられた。

全学共通科目として語学教育が主軸に置かれており、4月入学生は、リベラルアーツ英語プログラム (ELA) と呼ばれる一連の授業を2年間履修する。ELAの授業はすべて英語で

行われ、論文の読解・執筆をはじめとした高等教育の場での知的生産を行うための方法論を英語を通じて修得する。留学生が多い9月入学生に対しては日本語教育プログラム（JLP）が用意されている。夏期には外国語教育としての日本語教育のサマーコースも開講しており、毎年海外から100名以上の学生が参加する。



入学式

#### ▽「メジャー制」に移行

2008年度には教学改革を実施し、それまで6学科（人文科学科、社会科学科、理学科＜自然科学科を改称＞、教育学科、語学科、国際関係学科）に分かれて入学していた制度を変更し、入学時には専攻を決めず、入学後にさまざまな分野の学問に触れた後、2年次の終わりに31メジャー（専修分野）の中から自身の専門を選択する「メジャー制」システムに移

行した。大学院も、2010年度に教学改革を実施し、従来の4研究科をアーツ・サイエンス研究科に統合した。

留学制度も充実しており、3年次以上の学生を対象とした交換留学は現在23か国、72大学と協定が結ばれている（2018年1月現在）。1学年約620名のうち150名がこの制度を利用して留学する。学生は現地の学生と同じ授業を学んで単位を取り、帰国後の単位に編入される。また、ELAの一環として夏期休暇期間の短期語学留学制度も1,2年生向けに設けられている。2014年には、世界のリベラルアーツ大学による連携組織「グローバルリベラルアーツ・アライアンス」の国内唯一の加盟大学となった。

日英バイリンガル教育の意味について、単に日本語、英語を流ちょうに話す人のことではない、と説明する。開かれた価値観と生涯学び続ける主体性を持ち、国際的な場や地域、世界の国々や日本、様々な職域や職種、個人生活においても、信頼される地球市民として、人々と協働しつつ人類の平和と共存に資する人であると規定している。

また、近年では、国際社会で必要とされるのは、日英2言語に加えてもう1言語の修得が大切であるとして、もう一つ学ぶことで、未知の文化や考え方を知り、自らの批判的思考力をより高め、より広い視野で物事を見て、考えることができるようになると説明している。そこでICUでは、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、韓国語、アラビア語、イタリア語、インドネシア語の9言語の授業を開講して、「日英2言語、プラス1言語」を修得する人の育成を進めている。

50年前からは米カリフォルニア大学との交換留学制度が続いているなど歴史は古く、現在では世界25か国・地域、75大学と協定を結んでいる（2020年2月現在）。



授業は、オンラインか、ハイブリッドで実施する方針

### ▽コロナ禍克服に全力

このように海外とのつながりが強いだけに今回の新型コロナウイルス禍の及ぼす影響は大きい。同大学によると、今年のサマーコースは中止となった。日本語教育プログラムは、正規の授業科目なので、オンラインで実施し、秋以降についてはオンラインか、ハイブリッドで実施する方針だ。

派遣留学については「不要不急の渡航を自粛する（外務省の）レベル2以上の国・地域に関しては留学を原則禁止」とし、留学予定先の大学がオンライン授業などを実施している場合は日本にいながらリモート「留学」をしているケースもあるという。留学受け入れについては、留学元の学校の判断を踏まえて、海外からオンラインでICUの授業を履修するのか、

留学を辞退するか、留学期間を変更するか、選択肢を提示しているという。

大学のキャンパスは学生数に比べて広大である。62 万平方米はプロ野球の東京ドーム 13 個分に相当し、緑も豊富である。学生数は、ほかの私立大学に比べて少なく、1 学年 620 人程度であり、専任教員 1 人当たりの学生数も 18 人程度である。

また、寮で生活している学生が多いのも特徴である。全学生寮の定員は学生数の 30%に当たる約 900 人。学生寮は「リベラルアーツを学び、実践する教育の場」として位置づけられている。学生たちは共同生活における「対話」を通じて、人権や多様性の尊重、責任の共有、分担を学ぶ。外国籍学生と日本人学生がともに暮らす環境の中で、議論し、互いの違いを認めあい、協力して解決を試みる経験は、人間として、そして国際人としての成長に大きく寄与するものとなる。(コロナ禍で 8 月中閉寮しており、9 月からは感染症予防策を徹底したうえで、希望者は戻る予定)

入試制度は、4 月と 9 月の入学試験に分かれている。4 月生向けの試験としては一般 (A 方式・B 方式)、4 月入学帰国生特別、社会人特別の 3 種類のほか、指定校推薦、特別入学選考がある。A 方式は総合教養、人文・社会科学または自然科学、英語 (リスニングを含む) の 3 科目からなり、いずれもマークシート方式だ。B 方式は、A 方式に比べて入学者枠は少なく、第 1 次選考として総合教養、英語、第 2 次選考として個別面談が課される。総合教養は 2015 年度から導入され、その方式は 15-20 分ほどの講義を聴き、それを元に 40-45 問程度の問題にこたえるという方式である。

少人数教育を貫いてきたとはいえ、60 年余りの歴史を経て輩出して同窓生数は約 29000 名に上る。「世界のどこに行っても同窓生に出会う。特に国連や国際 NGO では多くの同窓生と仕事をするようになる」と言われている。

同大学の学長は 2012 年 4 月から 2020 年 3 月まで、上智大学出身 (2002 年から国際基督教大学の準教授、教授) の言語学者、日比谷潤子氏が務めていたが、4 月からはフランス文学者で詩人でもある岩切正一郎氏に交代した。岩切氏は東京大学文学部卒、国際基督教大学教授となり、日比谷氏の任期満了に伴い学長に就任した。

また、日本人初の国連難民高等弁務官として、難民支援に貢献した国際協力機構 (JICA) 元理事長の緒方貞子氏 (2019 年 10 月死去) は、国際基督教大学の准教授の時に国連公使に起用され、その後国連人権委員会の日本政府代表などを歴任した。



卒業した中国留学生がマスクを寄付

文：滝川 進